

Urban Design Lab. Magazine

1年間の成果を込めて Put the result for one year.

2012年度プロジェクト報告書完成 - The project reports in 2012 -

2012年度の活動についてまとめた佐原、清水、田村、各プロジェクトの報告書と大槌赤浜の避難行動記録冊子が完成しました。それぞれの報告書に込めた思いをメンバーに綴ってもらいました。



Sawara-project

佐原プロジェクト

text_kashiwabara



佐原PJの2012年度活動報告書『記憶でつなげるまちなかづくり』が完成しました。報告書は二部構成で、前半は佐原に昔から住むご年配の方々へのヒアリング調査をまとめた「佐原の記憶を伝える」、後半は空き家活用提案と忠敬橋袂の修景提案をまとめた「魅力的なまちなかづくり」となっています。ユニークで地元愛に溢れる佐原のご主人達や、いつも発表や提案の機会をくださる市役所の方々のご協力の元に、昨年度の活動を締め括ることが出来ました。



Shimizu-project

清水プロジェクト

text_koshimura



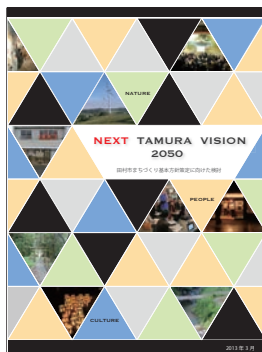
本報告書では2012年度に実施した石造倉庫や蔵の測量、商店街でのヒアリング調査や、子供向けWS、社会実験「ミナトブンカサイ」についてまとめ、さらに港湾施設の活用事例についても紹介しています。メインの活動である社会実験では倉庫街の新しい活用方法の提示と市民の認知度向上という一定の成果が得られましたが、この報告書を作成する中で、これらの取り組みの意義やPJの長期的な目標を改めて考えることも出来たと感じています。



Tamura-project

田村プロジェクト

出口研 M2 久野 恭平



2012年度の田村PJ活動報告書が間もなく完成します。今回の報告書は、田村市全域の2050年に向けた将来像を段階的に描いたもので、過去5年間の取り組みも本書を読めば概要が分かるようになっています。本書の作成には、市長、市民代表、UDCTのスタッフ等、様々な主体が関わっています。作り上げる過程でこうした方々と議論し、将来像の共有を図れたのが1番の収穫かもしれません。本書が「次なる田村市」実現に向けた手がかりになれば幸いです。



Otsuchi-project

大槌プロジェクト

text_fukushi



昨年11月から取り組んできた大槌町赤浜地区での避難行動調査をまとめた冊子が完成しました。地元の公民館の方々と共に仮設住宅等を一軒一軒回り、3月11日当日のできごとや避難生活について詳細なヒアリングを行い、200名以上の行動記録を集めました。口述をもとに冊子としてまとめるのは難しいことも多くありましたが、地元の方々の熱心なご協力もあり無事に発行を迎えることが出来ました。今後この冊子が防災教育などに役立てられればと思います。

新入生歓迎会開催！

The welcome party

5月9日（木）の研究室会議終了後に、伊藤国際学術研究センター内のファカルティクラブにて、新入生歓迎会が行われました。この春から、D2が1名、M1が4名、卒論生7名、研究生1名と多くのメンバーが加わりました。

西村先生による乾杯の音頭で会は始まり、自己紹介のコーナーでは、新入生それぞれから、これから取り組んでいく論文や設計に対する力強い意気込みが聞かれました。普段なかなか顔をあわせることのないメンバーと意見を交わす光景が、会場のあちらこちらで見られ、非常に有意義な時間ともなりました。

最後の窪田先生からのお話にもありましたが、これからの1

5月9日（木）に伊藤国際学術研究センターにて行われた研究室の新入生歓迎会の様子を報告します。

text_hagiwara

年間を今の意気込みを忘れず、研究やPJにと取り組んでいけたらと思います。



▲今年度のメンバーで集合写真



▲西村先生にB4が自己紹介中

御茶ノ水ソラシティ見学会

The tour of Sola City in Ochanomizu

御茶ノ水にオープンした新名所ソラシティの見学会が、4月26日（金）にまちづくり大学院 D4 の川崎さんの案内で行われました。

4月26日（金）、まちづくり大学院 D4 の川崎さん（大成建設）と大成建設の中村さん（平成9年修士卒）に案内をしていただき、クリス先生、中島伸先生と M2 萩原、M1 瀬川・高梨・チャールズ・道喜、空間計画研究室の D1 吉田、M2 遠藤・宮崎が、4月12日にオープンしたばかりの御茶ノ水ソラシティの見学会に参加しました。

ソラシティは都市再生特別地区として、駅前空間整備や環境負荷低減、歴史・文化の承継というコンセプトのもと、駅前立体広場やペDESTリアンデッキ、まち歩き拠点（お茶ナビゲート）などを通して「御茶ノ水駅とワテラス」「ニコライ堂と湯島聖堂」だけでなく「御茶ノ水界限」までの歩行者ネットワークを創出していました。これをオフィスビルで実現し、さらにワテラス、メ



▲お茶ナビゲートを案内していただく



▲ソラシティプラザとニコライ堂

トロク、NPO とも連携しているところがこのプロジェクトの興味深いところだなと感じました。

まだテナントのっていないフロアやプライベートの屋上庭園などをお見せいただき、こちらの質問にも丁寧に説明いただき大変ありがたい見学会となりました。川崎さん、中村さん、ありがとうございました。



▲ソラシティ外観



▲ソラシティ周辺 MAP



プロジェクト報告

POPs プロジェクト

新年度最初の現地調査報告です。

text_takanashi

参加希望が多く、今年4人のM1が加わったPOPs（公開空地）プロジェクトは4月26日（金）に新年度最初の調査を行いました。

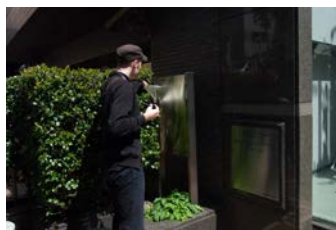
九段下に始まり、水道橋・御茶ノ水周辺を総合設計制度で定められた公開空地の地図を片手に歩きました。今回の参加者はクリス先生、M1 チャールズ・瀬川・高梨、研究生のティナ、早稲田大学国際教養学部からB4平さんという、多様でインターナショナルなメンバーとなりました。

時節、自国の都市空間との違いや、空間のとらえ方自体の違いについて意見を交換しながら、様々な制度によって生み出されている空地の現状を調査してきました。

個人的には特に公開空地の果たすべき目的の在り方についてなど空地自体の性質と同時に、与えられた容積が街に及ぼす影響に関して思考を深めていくことも空地の評価につながるのではないかと感じました。



▲作り込まれた空地に息をのむ一瞬



▲公開空地標識を発見するクリス助教

黒瀬助教新婚旅行記

Diary of the honeymoon.

昨年入籍の黒瀬助教が新婚旅行で南欧、モロッコへ！

助教 黒瀬 武史

お休みを頂き、ポルトガル・モロッコ・スペインに行ってお参りました。初訪問のリスポンについて二つほど。一つは名物の細くて急な坂道を縫うように進む路面電車。運転席の後ろに陣取り、童心に戻って楽しみました。観光ルートだと思っていたら、意外に地元の方が利用していて、観光利用と重なり、古い路線も愛されて生きながらえていると感じました。もう一つは、モザイク状に様々な町割が合わさった街のかたちが印象的でした。特に大津波からの復興で作られたBaixa地区。車道（南北）と歩行者道（東西）で構成されるグリッドの街区ですが、東西道路の突き当りには、地下鉄の入口や高台と低地部をつなぐEV、多用途に使える小広場（オープンカフェから工事ヤード、搬入用駐車場まで）が、巧みに配置されていました。復興で生まれた街区が、市民に使いこなされてきた歴史、丁寧に機能を加えてきた計画者の努力、それを支えた元々の公共空間のゆとりの重要性を実感しました。



▲EVから見たBaixa地区の東西道路



▲軒先すれすれを走る路面電車より

Information

5月の予定

- 5月11日 13時- 大谷幸夫先生を偲ぶ会 @東京大学弥生講堂一条ホール
- 5月12-13日 清水PJ現地調査
- 5月28日 第3回研究会会議

編集後記

萩原 拓也

汗ばむ陽気となってまいりました。皆様、GWはいかがお過ごしでしたか。GW中、先に社会人となった友人たちが、ここぞとばかりに連休を満喫している姿を目撃し、働くということの何たるかを教えられたような気がしました。一方、私はGW中、くまものモノマネ習得を目指すという、実に学生らしい祝日の過ごし方をしておりました。数日間の研究の結果、目の開き方が最大のポイントだと判明しました。